

## 第44回欧州人工臓器学会 (ESAO Congress, 2017年9月6日～9日)に参加して

大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科

戸田 宏一

Koichi TODA



2017年9月6日～9日にオーストリアのウィーンで開催されたESAO (欧州人工臓器学会) - IFAO (国際人工臓器学会) 2017に出席した。発表に加えて、2019年に大阪で開催予定のIFAO - JSAO joint conferenceの視察を兼ねての参加であった。

この国際学会について少し説明すると、IFAO (International Federation for Artificial Organs) は、日本人工臓器学会 (JSAO), ESAO, 米国人工臓器学会 (ASAIO) の3団体の上部組織となる国際連合である。本国際学会はASAIO, ESAOあるいはJSAOと合同で開催され、米国→欧州→日本の順に2年に一度開催される規則となっており、今年はESAO - IFAO joint congressとなった。

ウィーンへは関西空港 - ヘルシンキ - ウィーンという経路をとった。空路は北朝鮮近くの中国上空を通るが、飛行機の尾翼に搭載されたカメラで地上の景色が一望され、少しドキドキ感を味わった。ヘルシンキまでは10時間弱で短く感じられ楽であった。

到着翌日の昼からIFAOの理事会があり、2019年大阪で開催予定のIFAO - JSAO joint conferenceの紹介プレゼンテーションを澤芳樹教授が行った。この時Artificial Organsのchief editorであるDr. Paul Malcheskyから、当初の開催予定日(11月28日～30日)では11月28日がThanksgiving dayにあたり、米国からの参加が少なくなるのではとの意見が出た。もとよりASAIOメンバーのIFAOへの参加は少なく、2019年IFAO - JSAOではこれを変えることを一つの目的としているので、彼の意見を取り入れ日程変更するべきという判断となった。急いで会場・日程

の再調整を行い、11月12日～15日で会場を押さえることができたが、花崎和弘先生が大会長を務められる第81回日本臨床外科学会総会(2019年11月14日～16日、高知)と少し重なることとなってしまった。経緯を説明し、花崎先生にはご了解頂いたが、申し訳ない結果となってしまった。

学会場は、AKH (Allgemeines Krankenhaus) ウィーン総合病院の一角を4日間借り切った形で行われた。AKHはとてつもなく大きな病院で、病院の入り口には学会の案内がまったく出ていないので、抄録集に載っている地図だけを頼りに7階まで上がっていくと、廊下の端に「welcome to ESAO & IFAO 2017」と書かれたポスターが貼ってあり(図1、左から堂前圭太郎君、澤芳樹教授、秦広樹君)、その奥で200～300人ほど収容できる階段教室を5部屋使って、学会が開催された。

大会長のウィーン大学のProf. Heinrich Schimaによると、世界30か国から500人の参加があり、320演題が発表されたとのこと。内容は循環、血液浄化、人工肺、人工関節、人工肝臓のみならず、再生医療・組織工学と多岐にわたっており、TERMIS (国際組織工学・再生医療学会) とのjoint sessionも行われていた。私はkey noteとして日本でのTAVI (transcatheter aortic valve implantation) を含む弁膜症治療について講演させて頂き、ついでに2019年IFAO - JSAOの宣伝もさせて頂いた(図2)。

Social eventとしては、学会主催の2日目夜の医学博物館見学と、3日目のホイリゲ(ワインセラー)でのdinner partyが企画されていた。博物館も歴史があって興味深かったが少しグロテスクな感じがしたので欠席して、dinner partyに参加した。そのホイリゲはバスで20分ほどのウィーン郊外にあり、ビール、ワイン、オーストリア料理と、音楽を満喫した。

学会外では、ウィーンは小さいパリといわれるように、

### ■ 著者連絡先

大阪大学大学院医学系研究科心臓血管外科

(〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-15)

E-mail. ktoda2002@yahoo.co.jp



図1 ESAO 2017会場入り口



図2 IFAO - JSAO 2019を宣伝

歩いて回れる範囲に王宮などの歴史的建造物、オペラ座、ウィーンフィルで有名な楽友協会、お洒落なカフェ、レストランがあり、また地下鉄、路面電車も多く遊ぶところがありすぎるのでここでは割愛させて頂く。また時間があればシシイことエリザベートが愛したシェーンブルン宮殿や、クリムトの絵画で有名なベルヴェデーレ宮殿にも行ってみたかったところであった。

最後に注意勧告を。市内と空港はJRのような電車で行かれており、便利ではあるが、落とし穴がある。市内は地下鉄を含め、3日間乗り放題券が16ユーロぐらいで買える。最終日にこれで空港までの電車に乗ったが、検札に来られ最初はごまかせたと思ったのだが、supervisorが出てきて罰金となってしまった。一人90ユーロ。確かに観光

ガイドには「空港に行くには市内チケットに追加チケットが必要」と書いてあったが、買うところがわからず……。 「追加料金で勘弁を」と言ったものの受け入れられず、「ユーロの現金もない」と説明したら、空港の両替までついていくとのこと。まいった。円をユーロに替えて支払った。2ユーロの追加チケットをケチった罰かと反省しつつ、検札官が来たタイミングは、まさに電車が出た所であったことを考えると、スーツケースを持ったカモを探していたのかと……。

以上、学会外でも興味ある経験ができた初めてのESAO学会参加となった。

本稿の著者には規定されたCOIはない。